

みな
皆さんへ

みな みち ある め はい じょうほう みみ はい
皆さんは道を歩くときに、目から入ってくる情報や、耳から入っ
てくる情報を頼りに歩いていると思います。

ちず み い ばしょ い ちず な
地図を見れば、行きたい場所に行くことができるし、地図が無く
ても、案内板を頼りに、目的の場所まで行くことができます。

め はい じょうほう いっさい な せいげん
目から入ってくる情報が一切無くなってしまったり、制限をされ
てしまったりしたら、私たちは、どのようにして道を歩き、目的地
まで行ったらいいのでしょうか。困ったことに、道をまっすぐ歩く
ことも難しいでしょうし、どこの角や交差点を曲がったらいいのか
もわかりません。信号の色の区別も出来ません。

め ふじゆう ひと ある たす きき
そんな目の不自由な人が歩くときに、それを助ける機器がいくつ
もあることを皆さんは知っていますか。普段歩いている道の中で、
これは何のためにあるのか疑問に思っていることはありませんか。

ほん みな よ め ふじゆう ひと みち ある
これからこの本を皆さんに読んでもらい、目の不自由な人が道を歩
くときの理解を深め、協力して暮らせる社会づくりを考えていき
ましょう。